

28N-am01S

慢性 C 型肝炎治療の地域差：全国規模のデータベースによるゲノタイプ毎の解析
○井出 和希¹, 川崎 洋平¹, 山田 浩¹, 正木 尚彦² (¹静岡県大院・薬, ²肝炎情報センター)

【目的】慢性 C 型肝炎に対するペグインターフェロン・リバビリン (Peg-IFN/RIB) 併用療法について、日本における、ゲノタイプ毎の地域差の存在は十分に明らかでない。そこで、肝炎情報センターの構築した全国規模のデータベースを用いてゲノタイプ毎に各都道府県の奏効率を算出し、併せて、影響を及ぼす因子を考慮した解析を行うことで、地域差について検討した。

【方法】2009 年 12 月～2013 年 4 月の期間にデータベースに登録された慢性 C 型肝炎 (ゲノタイプ 1 又は 2 型) の患者を解析の対象とした。ウイルス学的著効 (Sustained virologic response : SVR) を奏効の指標とし、各都道府県の SVR 率を算出した。加えて、SVR 率に影響を及ぼす因子についてステップワイズ法を用いたロジスティック回帰分析により選択し、調整済みオッズ比を算出した。ゲノタイプ毎、各都道府県の SVR 率及び調整済みオッズ比の幅を比較した。

【結果および考察】対象期間に、36 都道府県から 16,349 名の患者が登録された。解析対象者は 11,653 名 (ゲノタイプ 1 型 7,950 名, 2 型 3,703 名)、各都道府県の SVR 率は、ゲノタイプ 1 型で 48.4 [30.0-63.0]%, ゲノタイプ 2 型で 80.4 [55.0-100.0]%であった。ロジスティック回帰分析の結果、ゲノタイプ 1、2 型共に、年齢、性別、血小板数、C 型肝炎ウイルス量、治療経験の有無が影響を及ぼす因子として選択された。これらの因子を加味した解析の結果、都道府県番号 1 を Reference とした 35 都道府県の調整済みオッズ比の幅は、ゲノタイプ 1 型で [0.66-2.13]、ゲノタイプ 2 型で [0.36-2.63]と算出された。SVR 率及び調整済みオッズ比の幅はゲノタイプ 1、2 型のいずれでも大きく、ゲノタイプを問わず、慢性 C 型肝炎に対する Peg-IFN/RIB 併用療法に地域差が存在する可能性が示唆された。